

## 生徒会誌「松鵬」ができるまで。

～「松鵬」は、企画・編集から校正、印刷会社との交渉まで、生徒が創る本物の生徒会誌です。～

生徒会では、毎年、生徒会活動のまとめとして生徒会誌「松鵬」をつくり、みなさんに配布しています。

今年の「松鵬」は、しおかぜ総文祭総合開会式プレ大会が終わった翌日の11月5日から始まりました。まず編集委員長(総責任者)と各チーフを決め、印刷会社と打ち合わせを行い、注意事項などを確認した後、制作に入ります。

本をつくるためには様々な作業が必要です。まず、どのような内容にするか決め、原稿用紙を準備し、クラスや部活動、先生方へ執筆を依頼します。文化委員には、クラスでアンケートをとってもらいました。



どんな「松鵬」にしようかな



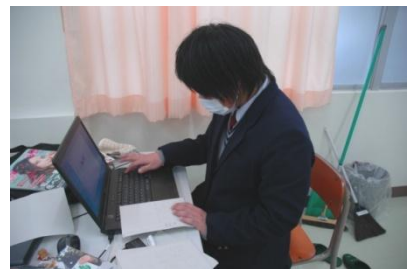
いい写真を撮りますよ!

12月に入ると写真撮影がはじまります。いい写真が楽しい生徒会誌への近道です。期末考査中にクラス写真撮影を行い、試験後は先生方や各部活動の撮影を行いました。クラス写真では、執行部がカメラの扱いに慣れず撮り直しとなり、迷惑をかけてしまいゴメンナサイ。部活動の撮影でも撮影が長引きました。



みんな協力して編集しています

写真撮影が進む頃、みなさんに書いてもらった原稿が集まってきます。次は、その原稿や写真を紙の上でどう配置するか、レイアウトを決めます。ここが編集の勝負どころです。雑誌などを参考にしながら決めていきます。今年は「貼り付け」感のあるレイアウトを意識しました。そして12月の終わりに、何とか印刷会社に初稿を納めることができました。



パソコンで原稿と写真を管理します

1月になると、印刷会社からゲラ(試し刷り)が出てきます。ここからが戦いです。ゲラの校正(訂正)とともに、足りない原稿が見えてきます。今年も原稿の不足がいくつも見付き、次の戻し日に間に合わせるため土日の作業もありました。この作業を1月から2月にかけて合計3回行います。

今年度は修学旅行が遅かったため、執行部2年生は修学旅行から帰ってきたその日に修学旅行原稿を仕上げました。そして、校長先生に見ていただき、OKをもらった後、印刷会社で印刷・製本に入ります。

さあ、これで生徒会誌「松鵬」の完成です。

編集チーフ

